

あま市民病院だより

★不定期連載 消化器コラム★

第4回 胆石と胆道感染症

健康診断などの腹部超音波検査で『胆石ですね。腹痛など繰り返すことがなかったら経過をみましょう』と言われたことはないでしょうか。胆石は、結石のできる場所によって胆嚢結石・総胆管結石・肝内胆管結石に分類されます。また、胆石は無症状のもの（90%以上は無症状のままです）、発熱・腹痛・黄疸（皮膚が黄色くなる身体所見）などの症状があるものに分けられます。

激しい腹痛と発熱で救急外来に受診して『急性胆のう炎』や『閉塞性黄疸』などと言われたことはないでしょうか。それは、胆のうの出口で結石が嵌頓（内臓器官が腸壁の隙間から脱出し、もとに戻らなくなった状態）する胆のう炎や、総胆管の出口で結石が嵌頓して急性閉塞性化膿性胆管炎を合併する場合等です。そのため、症状がある場合は、急性胆のう炎、閉塞性黄疸による急性化膿性胆管炎などを診断した後に緊急で処置が必要になります。胆嚢穿刺ドレナージや内視鏡的逆行性胆管造影（ERCP）後に、ステント留置、碎石術などの処置がそれぞれの疾患の適応となります。外科治療はその後になる場合がほとんどですが、胆のう結石の場合は腹腔鏡下胆のう摘出術が行われます。また、無症状の場合には原則経過観察となることがほとんどですが、造影CTやMRI検査で胆のう癌合併が疑われる場合には外科治療となります。胆石が胆のう癌の危険因子とはいわれていませんが、胆のう癌には胆石合併が多いといわれています。胆石の危険因子は、肥満、高脂血症や非アルコール性肝炎など炭水化物・糖質・動物性脂肪の過剰摂取、急激なダイエット、運動不足といわれています。

今回は、胆石と胆道感染のお話でした。健康診断で『胆石』や、急な腹痛で病院に受診して『胆嚢炎』や『胆管炎』などと言われることがあるかもしれません。胆石については、診断や治療が専門的ですので治療や処置を高次医療機関に依頼する場合があります。しかしながら、診断がつかないことには始まりません。急な腹痛や発熱などの際には、かかりつけ医の先生や病院、診療所に相談してください。あま市民病院ではかかりつけ医の先生と連携して地域医療に貢献してまいります。

あま市民病院 消化器・内視鏡センター長 岩田 正己

◆◆◆あま市民病院Facebookのご紹介◆◆◆

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>

公益社団法人
MED 地域医療振興協会

〒490-1111 あま市甚目寺畦田1番地
問合時間：午前8時30分～午後5時
（土・日曜、祝日を除く）

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>

